

校種・教科等	高等学校 水産(航海)	受験番号		氏 名	
--------	----------------	------	--	-----	--

『水産科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和7年11月3日 第2校時(50分)
- (2) 場 所 1年A組教室
- (3) 学年・学級 第1学年 A 組(15名) 使用教科書 水産海洋基礎(海文堂)
- (4) 単 元 名 第2章「水産業と海洋関連産業のあらまし」 第2節「とる漁業・つくり育てる漁業と資源管理」
教科書 P53～77
- (5) 指導する児童(生徒)の状況
- 【既習事項】
- ・水産海洋基礎(座学と基礎実習)の学習の中で、海のあらまし(第1章)、船と暮らし、漁業の変遷、漁業生産の動向、とる漁業について学習している。
- 【単元のねらい】
- ・四面を海に囲まれた地理的条件から、日本は古くから海を、漁業、海上交通、輸送の場として利用してきた。本単元では、水産業の歴史や漁業方法、水産資源を維持していくための管理型漁業について理解し考えを深める。
- 【児童(生徒)の状況】
- ・水産海洋に関することに興味・関心を示す生徒は、クラスの半分程度である。
 - ・授業中、自主的にノートをとる生徒が約7割で、授業で集中できるのは30分程度である。
 - ・発問に対して、積極的に発言する生徒は多いが、学力差があり、反復を繰り返さないと定着しない。

(6) 指導計画(全15時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第1次 (4時間)	○船と暮らし 船の種類と役割、船の運航に関する基礎的な知識を理解する。 1-1 船の歴史 1-2 船の種類と役割 1-3 乗組員の編成と必要な資格 1-4 船の安全な運航	一斉 個別	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第2次 (4時間 本時3/4)	○とる漁業 水産業の歴史や漁業方法に関する基礎的な知識を理解する。 2-1 漁業の変遷 2-2 漁業生産の動向 2-3 とる漁業	一斉 個別	知識・技能 思考・判断・表現
	○つくり育てる漁業と資源管理 水産資源を維持していくための管理型漁業を理解する。		
	2-4 つくり育てる漁業(増殖と養殖、種苗生産) 増殖と養殖、種苗生産についての基礎的な知識を理解する。 (1時間:本時)教科書P64～69	一斉 個別	知識・技能 思考・判断・表現
	2-5 つくり育てる漁業の具体的事例 2-6 資源管理型漁業 2-7 資源管理の具体的方法	一斉 個別	知識・技能 思考・判断・表現
第3次 (4時間)	○水産物の流通と加工 漁業生産の基礎である採魚と集魚、各種漁獲法を理解する。 3-1 水産物需給の現状 3-2 食品流通のしくみ 3-3 食品流通の技術 3-4 水産物の加工	一斉 個別	知識・技能 思考・判断・表現
第4次 (3時間)	○わが国の水産業と海洋関連産業 海洋関連産業とは何か、またどのような役割があるかを理解する。 4-1 わが国の水産業 4-2 海洋資源の開発と利用 4-3 海洋空間の利用	一斉 個別	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。